

開催日時：平成18年9月18日（月） 15：00～18：00

場 所：マイドームおおさか 8階第3研修会議室

出席委員：池淵委員長、井野瀬委員、高橋委員、久委員、弘本委員、堀野委員、増田委員、
山下委員、（中川委員の意見紹介）

1. 議 題

(1) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

2. 概 要

○ 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

（まとめ）

神崎川ブロックの河川整備計画について、7月に実施した住民意見聴取の結果や、前回の委員会での指摘事項を踏まえ河川整備計画（案）をもとに審議を行った結果、委員会審議を終了し、指摘事項の修正を委員長に一任し、申請手続きを進めることとなった。

（委 員）今後、安威川ダムに関する具体的な環境保全対策の検討がされるが、その結果の取り扱いと、河川整備計画の関係はどうか。

（事務局）今後の安威川ダムの環境保全対策の検討状況、事業の状況などについては、節目々々で委員会に報告し、ご意見をいただきたい。

（委 員）「流出抑制施設」などの専門的な用語については、説明を加えた方がよい。併せて、「環境の現状」などの記述内容の再精査もお願いしたい。

ダム上流域で日雨量 378 mm など、かなり大きな値をもとにしてダム容量を出している点は説明を加えておく必要がある。

維持流量の検討の中で、「現在の安威川の環境特性に適した魚類ではない、ニゴイを検討対象にするのはふさわしくない。」と意見したが、そのことを追記していただきたい。

（事務局）記述の再精査を行い、用語説明や委員意見を追記する。

（委 員）「河川整備計画の概要」で、「長期目標」と「整備計画の対象期間内での目標」が混在しているため、誤解を招く表現になっている。府民の方々に概ね 15 年間での整備内容をしっかりと理解していただくためにも、分かりやすい表現にする必要がある。

（委 員）「河川整備計画の概要」は、計画の全体図を概観できるものとしては非常に分かりやすいと思うが、たとえば利水の検討の中でも環境の議論があったように、整備計画の検討にあたっては、治水、利水、環境それぞれの項目をバランス良く審議した経過があるので、そのプロセスが分かるようにしてはどうか。

（委 員）河川整備計画の内容としてはいいと思うが、概要の内容と整合するように目次構成にも配慮してはどうか。

(事務局) 「長期目標」と「整備計画の期間内での目標」が明確に分かるように資料を精査し修正する。

(委員) 河川整備計画の内容としてはいいと思うが、長期的な問題として、上の川などの小河川において1/100年の整備を行う場合、河川の拡幅ができない中での「流出抑制対策」を、河川部局だけでなく総合的なまちづくりとの連携の中で「総合治水」を検討していく必要がある。

また、河川整備の実施に際しては、それぞれの地域の「まちづくり」のタイミングに連動して、整備を進めていただきたい。

(事務局) 「地域や関係機関との連携に関する事項」の中で、地域住民や地元市との連携の必要性を記述しており、機会をとらえ実施していきたい。

また、総合治水についても、溜池の利用や調節池などの検討を進めるなかで、都市計画などの部局とも連携し議論していきたい。

(委員) 「河川整備計画の概要」については、まとめすぎているという感想である。これまでの委員会審議の経過が分かるように、もう少し記述調の資料を作成すればどうか。そうすることで、府民の方々も全体構成を理解しながら本文を読んでいけるのではないか。

(事務局) 整備計画の最終のまとめとして、委員会審議の経過が分かるような資料を作成し委員長に相談したい。

(委員) 安威川ダムの不特定利水については、これまでの委員会の中で詳細に議論してきたので、その検討の内容や図表などの記述の精査も含めて分かりやすいものにしていただきたい。

(事務局) 安威川ダムの不特定利水を検討、記述した部分の再精査を行う。

(委員) 整備計画の策定にあたっては、住民意見を聴取する際にサイレントマジョリティーなど、一般の方の意見を聞くことに努力されたが、結果的には反応が鈍かったという感想である。これは、日ごろから一般の府民との接点が少ないことが起因していると考えられる。今後は、府民との接点を増やしていくことが重要であり、様々なまちづくりの運動や地域福祉計画などの関係のある取り組みにも間口を広げて、府民とどう接していくかを考えていただきたい。

(事務局) 今後検討していきたい。

(委員) ダム事業の実施にあたっては、工事期間が非常に長期にわたることや、具体的な環境保全対策の必要性を十分認識し、工事期間中の地元へのアカウンタビリティや環境保全対策については対応をお願いしたい。

(事務局) 今後ダム事業をすすめていく中で、委員会での環境保全に対するさまざまな意見を参考にし、事中、事後の対策を実施していきたい。また、具体的な周辺整備の内容やダム完成後の施設利用などの情報を「安威川ダムニュース」などいろいろな媒体を使って発信していきたい。

- (委員) 豪雨の頻度の増大化傾向が統計的にも出ているので、治水安全度向上を急ぐという認識も必要であり、超長期の計画も検討しておく必要がある。
- 整備計画策定時には地域住民の意見を聞きながら進めているが、整備の事中、事後においても住民に説明することを考えていただきたい。
- 住民意見に対しては、危機意識を持ってもらうという意味で、できないものはできないとはっきりと示すことも必要ではないか。
- (委員) 神崎川ブロックについては、治水、利水、環境という大きな枠組みの中で21回にわたり審議してきた。また、流域の特徴である「内水域」における治水対策の効果や「流域対応」の可能性など、さまざまな内容の検討、検証をおこなってきた。
- その中で、各委員から、それぞれの専門の立場での意見を十分にいただいたと考えている。本日も、一部、委員から指摘や意見もあったが、大きなフレームでの修正はないことを確認し、整備計画(案)としてこれまでの委員会審議をふまえた内容であったと考える。本日の指摘事項については委員長として責任を持って確認させていただき、申請手続きに進んでいただくこととしたい。